

研修を終えて

豊橋市民病院 研修医 2年

地域医療研修というものを、見るべきものも学ぶべきことも少ない、ただの面倒な義務だとしてらえている初期研修医は少なくないと思います。もちろん、新城市民病院が非常に学べる環境だとは聞いておりました。しかし正直なところ、研修当初の自分は知らない土地・知らない方々の中で過ごすことに不安と煩わしさしか感じていませんでした。

しかし、その時の心配は幸いなことにすべて杞憂に終わりました。大規模病院しか知らなかった自分には、新城での外来、救急、訪問看護や診療所などの院外実習すべてが新鮮であり、かつ非常に楽しく取り組ませていただきました。

その中でもやはり筆頭は総合診療科外来での診察です。これまでの ER で行ってきた、過剰ともとれる検査で緊急疾患のみを除外していく診療とは全く違っていました。丁寧な問診の聴取と身体診察、緊急性ではなく頻度で考える鑑別疾患、きちんと取捨選択した検査オーダーなど、どれも自分には不足していることばかりでした。そんな外来で戸惑う自分に、どの先生も呆れることなく丁寧に指導してくださいました。一人の患者さんに対し、その家族歴から社会背景まで、包括的に捉えることの重要性を初めて学んだ気がします。

また、作手診療所での診療も非常に良い経験をさせていただきました。年齢層のさらに高い方々に、どこまで深く検査、治療を行うか。どの患者さんも定期受診を楽しみにしており、まるで友人に会うように楽しげな雰囲気だったのも興味深かったです。そこで忘れられないのが、下肢脱力で来院されたとある高齢男性の診療です。病歴からは一過性脳虚血や脳梗塞も疑われ、どう検査していいものか非常に迷いました。大病院の ER であれば、エコー、血液検査から CT、MRI まですべて検査してしまいます。しかしこの診療所ではどうすればいいのか。そのときは結局、症状が改善していたので血液検査だけで帰宅となったのですが、医療資源の限られた診療所で必要な検査のみを行うことの難しさを痛感した出来事でした。

院外での実習も興味深いものばかりでした。訪問看護・訪問リハでは、意思疎通のとれない「寝たきり」の患者さんでも、実は心の通じる家族とは言葉が届いているのではないか、と思うことがありました。あるいは地域にひとつしかない助産所で、なんとか安心・安全にお産をしてほしいという助産師さんの想いに感銘を受けたりしました。医師がおらず妊婦健診も浜松まで出る必要があるのですが、それにも毎回助産師さんが付き添っており、さすが地域に密着したシステムだと感じました。また MSW さんとのお話もとても楽しかったです。普段任せっきりにしている退院・転院調整でしたが、実は様々な社会背景に合わせて丁寧に調整をしていると知り、いかに必要な存在であるか改めて知りました。

人見知りで臆病な自分がこうして楽しく過ごさせていただいたのも、ひとえにスタッフの皆様のおかげであります。しっかりと EBM に基づいた医療を提供し、常に熱心に指導してくださいました先生方、ただの研修医である自分にいつも明るく優しく接してくださいましたメディカルや事務の方々に心から感謝の意を述べさせていただきます。

一ヶ月という大変短い期間ではありましたが、本当にありがとうございました。